

Statistical Room



大きな買物かごで見る消費動向

皆さんが暮らしに必要とする商品を全て一つの大きな買物かごに入れたとき、その中身を同一のものに固定したとしても、全体にかかる費用はその時々物価によって変化していきます。この値動きを比率の形で表したものを消費者物価指数（CPI）といい、物価の動きを見るための指標の一つとして広く利用されています。（図1）

消費者物価指数で物価変動を追うためには、比較対象として基準時を定め、大きな買物かごに入る商品とその数量、各商品への消費支出額に占める割合（ウェイト）を固定した上で比較しなければなりません。しかし、大きな買物かごの中身は時代によって変化するため、物価の変化をより正確に把握するには、定期的に内容を見直す必要があります。このため5年ごとの見直し（基準改定）が定められており、平成28年8月には2015年基準への改定がされました。

基準改定前後の大きな買物かごの中身を比較することで、その時々市場の様子を読み取ることができます。例えば、2015年基準改定前後で特に指数値の動きに変化のあった費目は「教養娯楽」ですが、基準改定により前基準で指数値の変動に寄与することの多かったテレビやパソコンのウェイトが大幅に下落しました。これは、スマートフォン等代替機器の普及による需要低下のためと考えられます。また、ペットフードや獣医代のウェイト上昇からは、近年のペットブームの影響が見て取れます。このように、基準改定には消費実態の移り変わりが反映されています。（図2、図3、図4）

次回改定における基準時は2020年です。2020年東京オリンピック開催の影響でスポーツ用品や録画機器、宿泊料や施設入場料などの消費が増加するかもしれません。皆さんも、時代の動きや消費生活の内容の変化から将来の大きな買物かごの中身について予想を立ててみてください。

図1 消費者物価指数（例）

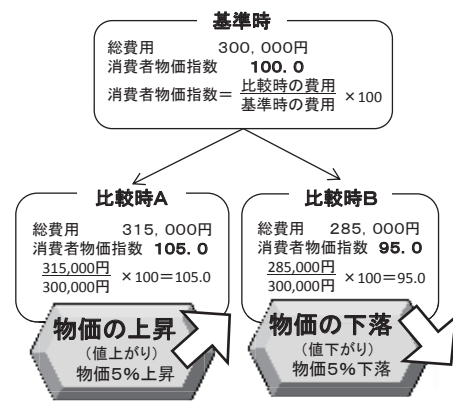
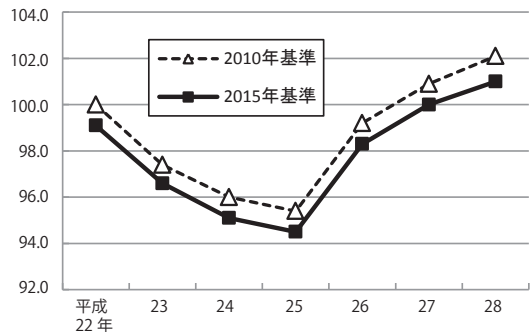
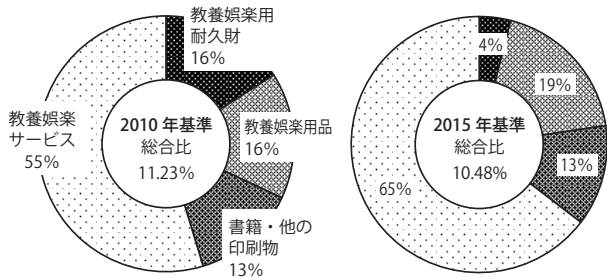


図2 京都市消費者物価指数 教養娯楽



出典：「平成22年基準消費者物価指数」「2015年基準消費者物価指数」（総務省統計局）HP

図3 京都市消費者物価指数 教養娯楽 新旧ウェイト割合比較



出典：府企画統計課

図4 京都市小売物価統計調査 教養娯楽 主要品目ウェイト変動

上昇	ノートブック、ペットフード、宿泊料、講習料（水泳）、獣医代など
下落	テレビ、パソコン、トレーニングパンツ、切り花、新聞代など

出典：府企画統計課